

美瑛町学校教育 情報化推進計画



美瑛町教育委員会

令和7年4月

目次

第1章 計画策定の基本的な考え方

1	計画策定の趣旨	1
2	教育の情報化の状況	2
3	計画の位置付け	3
4	計画の期間	4

第2章 計画の具体的な取り組み

1	教育の情報化に関する基盤整備	5
	(1) 通信ネットワークの整備	5
	(2) 情報端末の整備	6
	(3) 指導者用デジタル教科書の整備	7
	(4) その他ICT機器の整備	8
	(5) 情報セキュリティの確保	9
2	教育の情報化に関する取り組み	10
	(1) 教育活動におけるICT活用	11
	(2) 学校における情報教育の推進	12
	(3) ICTを活用した分かる授業の実践	13
	・学習用情報端末活用計画表	14
	(4) 特別支援教育におけるICT活用	18
	(5) プログラミング教育の推進	19
	(6) 校務の情報化の推進	20

組織図	21
-----	----

用語集	22
-----	----

資料集

・情報活用能力体系表（全体版）	23
-----------------	----

第1章

計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

近年のグローバル化と情報化の進展により、子どもたちの環境が大きく変化しています。特に、タブレット端末やスマートフォンの普及により、どこでもインターネットを使って情報発信や交流ができる時代となりました。

新学習指導要領では、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、各学校でのICT活用が求められています。また、小学校ではプログラミング教育が必須化されました。

これからの社会を生き抜く力を育むために、1人1台の端末環境は令和の時代のスタンダードです。また、全ての子どもたちを取り残さず、個々の状態に合った学びを保障するために、ICT環境の整備は不可欠といえます。

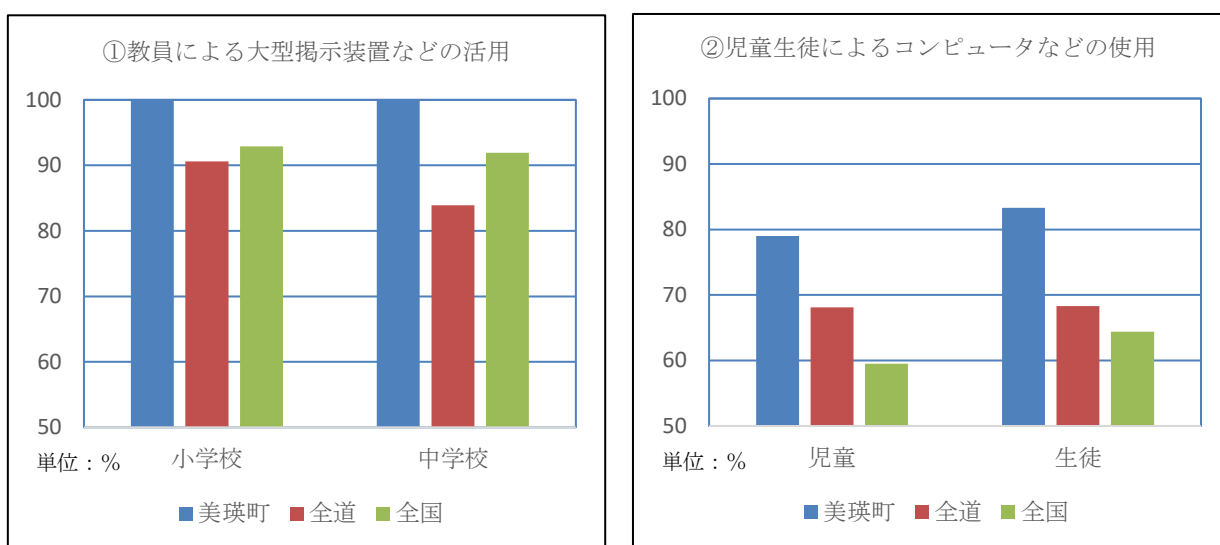
一方で、個人の所有する情報端末やインターネットを介したゲームの利用率の増加が進み、一部では「ネット依存」、「ゲーム依存」、「SNSでのトラブル」をはじめ、「ネット詐欺」などの被害も発生しています。また、ネットやSNS使用に伴う親子関係の希薄化も懸念されます。こうした現状からも、危険を回避するための知恵を身に付けさせるとともに、情報社会の特性や仕組みを理解させるなど、発達段階や利用実態に応じた指導が求められます。

本計画には、学校教育における情報化の基本的な考え方や、学年相応に身に付けるべき資質・能力を明確に記載しています。学校と家庭、地域、関係機関等が共通のビジョンを持ち、より効果的なICT機器の活用方法を模索しながら、本町の教育の質の向上を目指すとともに、児童生徒がより充実した学びを得られるようにICTを活用した教育活動の充実を図り、創造性や情報社会で生きる力を育むことを目指して策定するものです。

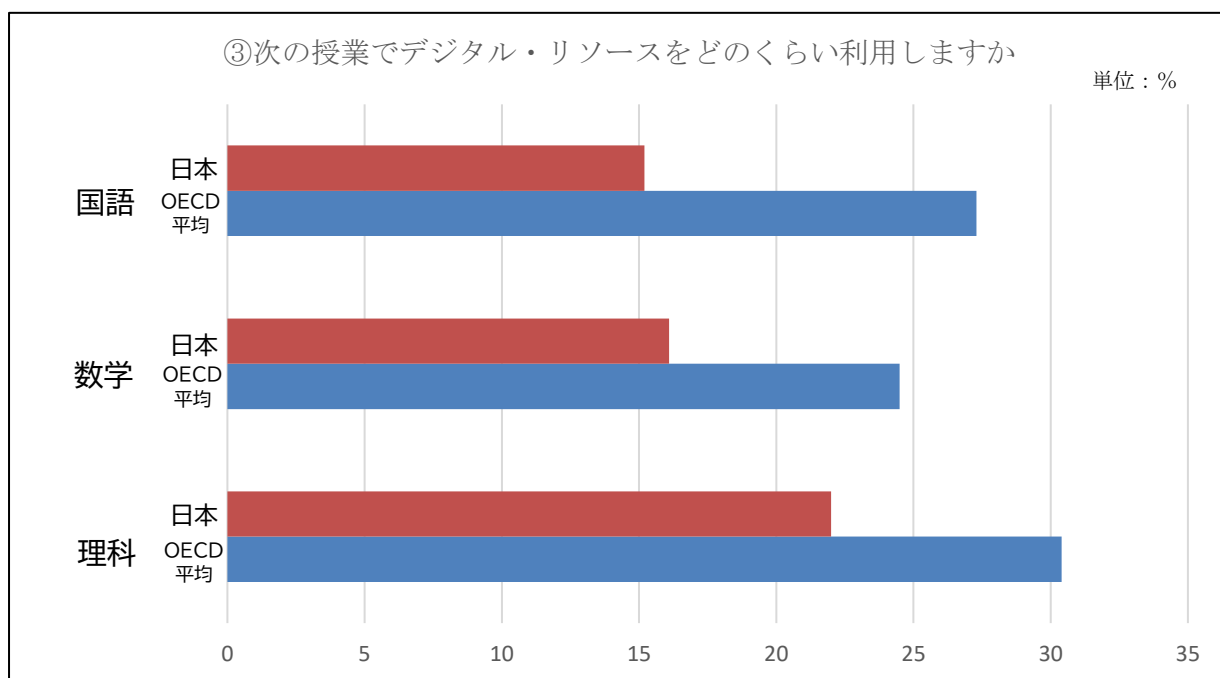
2 教育の情報化の状況

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果によると、グラフ①のとおり、本町の小中学校においては、教員が授業で大型モニターやプロジェクターなどのICTを活用している割合が、全道や全国に比べ高い傾向にあります。一方、グラフ③のとおり、世界の中では、日本の授業におけるデジタル・リソースの利用頻度は高いとは言えません。

今後も本町の教員の高いICT活用指導力をさらに生かし、日常の授業で児童生徒がコンピュータなどを一層活用できるように環境を維持していくことが求められます。



「令和6年度全国学力・学習状況調査[学校質問]」より

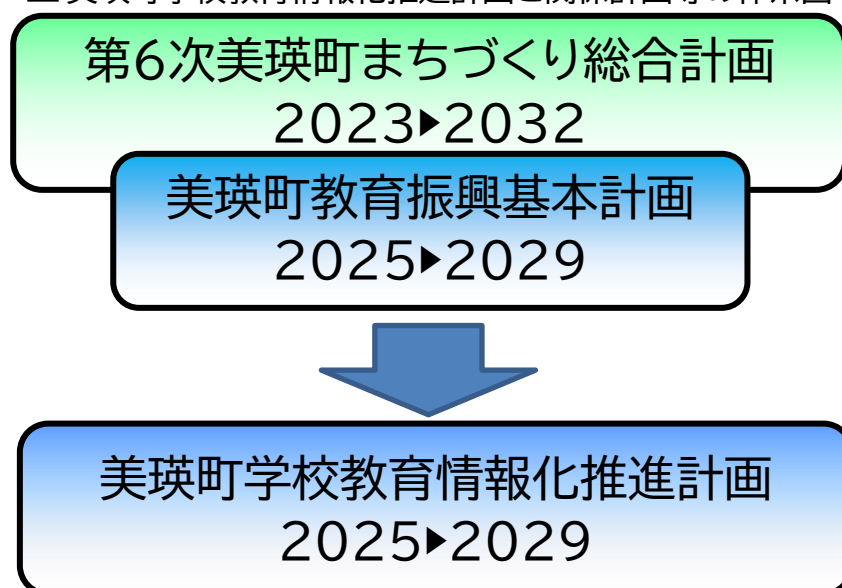


「OECD生徒の学習到達度調査PISA2022のポイント」より

3 計画の位置づけ

美瑛町学校教育情報化推進計画は、「第6次美瑛町まちづくり総合計画」と整合を図りつつ、本町の教育分野における指針である「美瑛町教育振興基本計画」に定める基本目標や掲げられた施策を踏まえて策定したものであり、本町のICTを活用した教育の基本的な考え方と進めるべき方向性を示す計画です。

■美瑛町学校教育情報化推進計画と関係計画等の体系図



○第6次美瑛町まちづくり総合計画

第3章 基本目標2-1 確かな学力の育成(2)ICTを活用した情報教育の推進

1人1台端末や各種ICT機器の活用により、すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進します。

○美瑛町教育振興基本計画

第2節.美瑛町学校教育推進の重点

4. 領域編

(3)学習指導 確かな学力を身に付ける学習指導

重点3 ICT教育の充実

4 計画の期間

美瑛町教育振興基本計画の終期に合わせ、計画の対象期間を、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までとします。

なお、期間中においてもICTを取り巻く産業の発展と、技術革新の急速な進展により、国や道などの教育施策の新たな展開や町の教育環境の動向に大きな変化が生じた場合には、必要に応じて見直していくこととします。

計画\年度	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)
第6次美瑛町まちづくり総合計画	→	→	→	→	策定	→	→	→	→	→	→
美瑛町教育振興基本計画	→	改訂	→	→	→	→	改訂	→	→	→	→
美瑛町学校教育情報化推進計画		策定	→	→	→	→	改訂	→	→	→	→

第2章

計画の具体的な取組

1 教育の情報化に関する基盤整備

本町では、町内全小中学校に校内LANを導入し、各学校から直接インターネット回線に接続できるようネットワーク環境を整備するとともに、従来のデスクトップ型から持ち運び可能なタブレット型へ移行しました。これにより、普通教室や特別教室でもインターネット利用が可能となり、子どもたちが様々な場面でICTを活用できるようになりました。

令和2年度に新型コロナウイルスによる感染症の拡大を受け、政府は緊急経済対策の中でGIGAスクール構想の前倒し実施を決し、814台を整備しました。

現在の情報端末は、整備後、5年を経過しているため、故障する端末が年々増加傾向にありることから、令和8年度に情報端末の入れ替えを計画しています。

(1)通信ネットワークの整備

■現在の整備状況(令和7年3月31日)

校務用ネットワーク	学習用情報ネットワーク
◆ネットワーク回線整備 CAT5E又は6	◆ネットワーク回線整備 CAT6
◆Wi-Fi環境 小中学校7校職員室	◆基幹スイッチ・フロアスイッチ整備 1000BASE-T(1Gbps以上)
◆外部ネットワークへの接続 インターネット回線 (フレッツ光)	◆Wi-Fi環境 小中学校7校校内全域
	◆外部ネットワークへの接続 インターネット回線 (フレッツ光)

※令和7年度以降も現状維持と定期的な監視及び整備を実施する。

(2) 情報端末の整備

■現在の整備状況(令和7年3月31日時点)

校務用パソコン及び学習用情報端末整備	
○学習用情報端末	
・全児童生徒1人1台	659台(chromebook)を整備
・教職員用	123台(chromebook)を整備
・予備機	32台(chromebook)を整備
※OSの選定は、学校関係者と美瑛町教育委員会で組織した「美瑛町教育推進協議会」でChromebookに決定した。	
○校務用パソコン	
・ノート型	128台(Windows)
・デスクトップ型	7台(Windows)



■令和7年度実施内容

校務用パソコン及び学習用情報端末整備	
○校務用パソコン	
・ノート型	175台(Windows)※学習用情報端末の機能を含める
・デスクトップ型	7台(Windows)



■令和8年度実施内容

校務用パソコン及び学習用情報端末整備	
○学習用情報端末	
・全児童生徒1人1台	531台(chromebook)を整備
・予備機	36台(chromebook)を整備

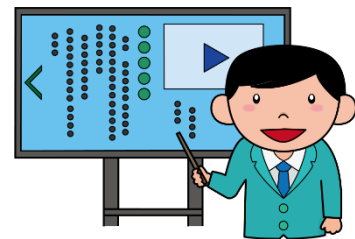
(3) 指導者用デジタル教科書の整備

教科書の内容を多様な子どもたちのレベルに合わせて指導できるように構成されたデジタル教科書は、紙の教科書の内容を引用しつつ、動画や静止画などをふんだんに用いた教材です。強調したい部分の拡大や読み上げなどの機能もあります。

デジタル教科書を大型モニター等のICT機器と併せて効果的に活用することにより、子どもたちの関心や授業への集中力を高めることができます。また、教職員の授業準備時間の軽減などの効果も期待できます。

■ 現在の整備状況(令和7年3月31日時点)

指導者用デジタル教科書	
小学校	
・国語…1～6学年	5校
・算数…1～6学年	5校
・理科…3～6学年	5校
・社会…5・6学年	5校
・英語…5・6学年	5校



(4) その他 I C T 機器の整備

■ 令和2年3月31日時点の整備状況

短焦点電子黒板機能付きプロジェクター	大型ディスプレイ
<ul style="list-style-type: none"> ・美瑛小学校 … 11台 ※黒板設置型一体型 ・美馬牛小学校 … 4台 ・美沢小学校 … 4台 ・明德小学校 … 3台 ・美瑛東小学校 … 6台 ・美瑛中学校 … 11台 ・美馬牛中学校 … 3台 	<ul style="list-style-type: none"> ・美瑛小学校 … 3台 ・美馬牛小学校 … 1台 ・美沢小学校 … 1台 ・明德小学校 … 1台 ・美瑛東小学校 … 3台 ・美瑛中学校 … 3台 ・美馬牛中学校 … 4台
実物投影機	
<ul style="list-style-type: none"> ・美瑛小学校 … 2台 ・美馬牛小学校 … 1台 ・美沢小学校 … 1台 ・明德小学校 … 3台 	<ul style="list-style-type: none"> ・美瑛東小学校 … 1台 ・美瑛中学校 … 7台 ・美馬牛中学校 … 3台



■ 令和7年3月31日時点の整備状況

短焦点電子黒板機能付きプロジェクター	大型ディスプレイ
<ul style="list-style-type: none"> ・美瑛小学校 … 12台 ※黒板設置型一体型 ・美馬牛小学校 … 4台 ・美沢小学校 … 4台 ・明德小学校 … 3台 ・美瑛東小学校 … 8台 ・美瑛中学校 … 9台 ・美馬牛中学校 … 3台 	<ul style="list-style-type: none"> ・美瑛小学校 … 13台 ・美馬牛小学校 … 5台 ・美沢小学校 … 8台 ・明德小学校 … 8台 ・美瑛東小学校 … 10台 ・美瑛中学校 … 19台 ・美馬牛中学校 … 4台
実物投影機	
<ul style="list-style-type: none"> ・美瑛小学校 … 2台 ・美馬牛小学校 … 1台 ・美沢小学校 … 1台 ・明德小学校 … 3台 	<ul style="list-style-type: none"> ・美瑛東小学校 … 2台 ・美瑛中学校 … 6台 ・美馬牛中学校 … 3台

(5) 情報セキュリティの確保

コンピュータを活用した学習活動が進むにつれ、教職員だけではなく、児童生徒も日常的にクラウドサービスにアクセスする機会が増えています。

国では、学校における情報セキュリティの考え方を整理し、「教育情報セキュリティ・ポリシーに関するガイドライン」を策定していますが、本町でも、教職員や子どもたちが安心してICT機器を利用できるようにし、インターネットを通じた有害情報から子どもたちを守るため、情報教育を行うとともに、情報セキュリティ・ポリシー(別冊1)及び学習用情報端末運用規程(別冊2)を定めます。

■ 現在の整備状況(令和7年3月31日時点)

教育情報システムの強靱性向上対応
<ul style="list-style-type: none"> ・校務系システムと学習系システムのネットワーク分離 ・校務系システムにウイルス対策ソフトの導入 ・校務系システムのOSアップデートの指導 ・セキュリティレベルの異なるシステム間での情報交流の規制

■ 各ネットワークにおける情報の種類

校務用ネットワーク	学習用ネットワーク
<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム情報 ・児童生徒の成績及び出欠席 ・健康診断結果 ・指導要録、指導計画 ・児童生徒がアクセスすることを想定していない情報 ・その他児童生徒のプライバシー等に重大な影響を及ぼす情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の氏名、学年、学級 ・児童生徒の学習活動の結果 ・学習支援ソフトに関するデータ ・児童生徒が作成した作品、作文、撮影した写真、映像など
校務用・学習用問わず扱うことが可能な情報	
<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ管理をしなくても構わない情報 ・公開を前提としている情報 ・教員が作成するプリントや教材など 	

2 教育の情報化に関する取組

本町では、1人1台の学習用情報端末整備を進め、次のとおり、教育の情報化をさらに進めます。

美瑛町における教育の情報化

- 情報教育の推進
- ICTを活用した分かる授業の実践
- 校務の情報化の推進

児童生徒の学習用情報端末を整備し、デジタル教材などを活用することで、自らの疑問について深く調べる個別学習や、意見交換や発表などの互いを高め合う協働学習を教科横断的に行い、子どもたちの思考力、判断力、表現力等を一層高めます。

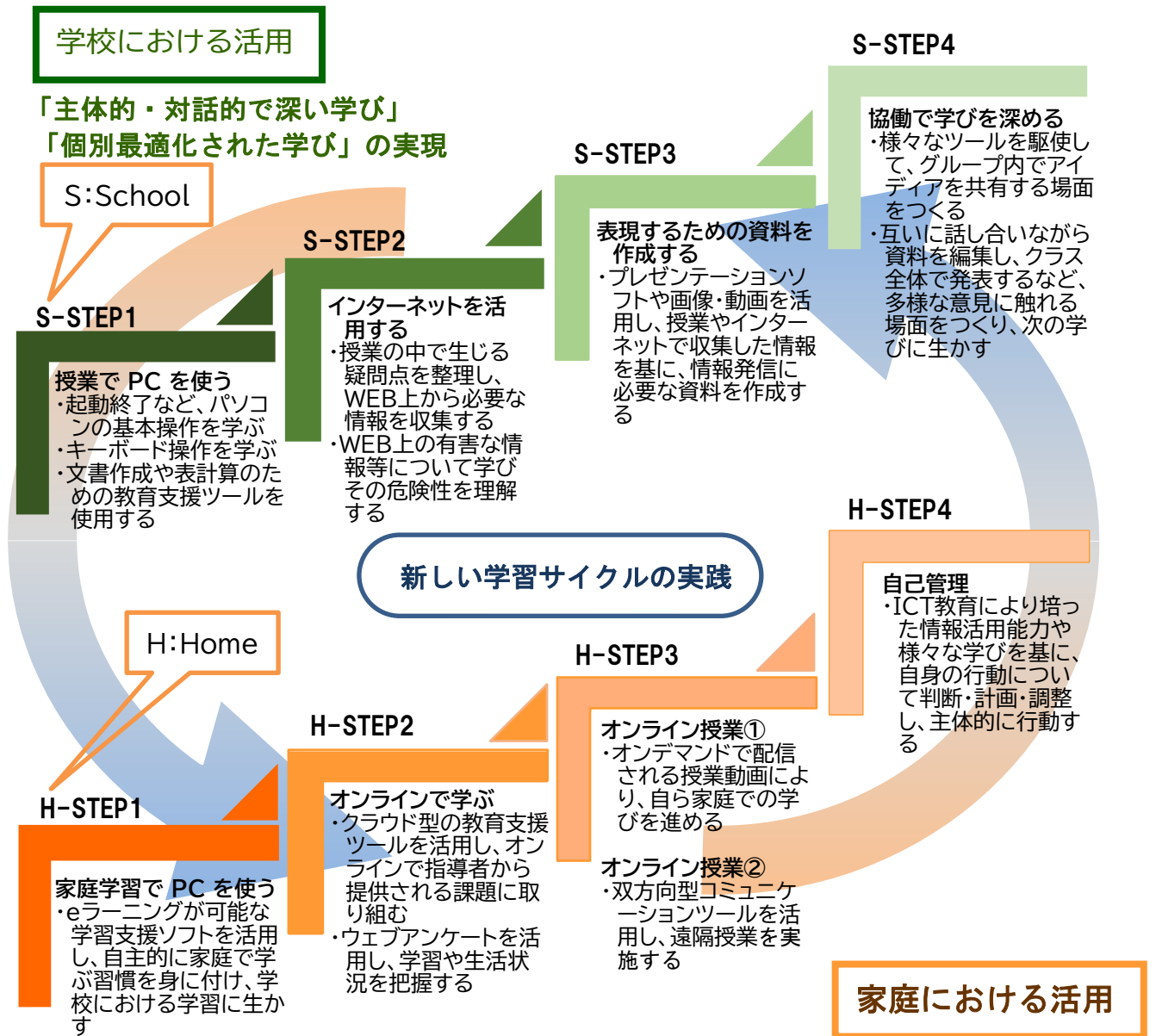
子ども一人一人の状態に合った合理的な配慮の下、より一層「分かる授業」や「学びの意欲を引き出す授業」を目標として授業改善に取り組み、子どもたちの確かな学力の定着を図ります。

教職員が校務でICTを活用することにより、校務負担の軽減を図り、きめ細かな指導を可能にします。また、児童生徒と向き合う時間や教職員同士が授業展開等を吟味し合う時間を増やし、教育の質の向上と学校運営の改善に資するよう、校務の情報化を進めます。



(1) 教育活動におけるICT活用

本町では、以下のステップを踏みつつ、少しずつできることを増やすことで「主体的・対話的で深い学び」「個別最適化された学び」の実現を目指し、緊急時においても子どもたちの学びが継続・保障されるよう、以下のサイクルを基本にICTの活用を進めます。



「児童生徒のニーズに応じた学び」の実現
「学びの継続・保障」

(2) 学校における情報教育の推進

学校においては、児童生徒の発達段階に応じて適切な情報活用能力が養われるよう、情報教育を進めます。

■ 全体目標

義務教育9年間	
<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の操作を身に付ける。 ・「プログラミング的思考」を身に付ける。 ・自ら情報を収集・選択し、工夫して活用する力を身に付ける。 ・情報モラルを身に付ける。 <p>(児童生徒の発達段階に応じて、インターネットやSNSなどを介して事件や事故、犯罪に巻き込まれる危険性があることを認識させる。また、保護者に対しても、同様に危険性があることを認識してもらう。)</p>	

■ 学年別の基本目標

小学校		中学校	
小学校段階では、中学校へ繋ぐための「基本的な操作」を各教科において習得させる。		中学校段階では、高等学校の「情報教育」へと引き継ぐレベルまでの部分を育成する。	
低学年	コンピュータに慣れ親しみ、文字や数字を打ち込み、簡単な絵や図、表やグラフを用いた情報整理の仕方を身に付ける。	1 学年	情報の大切さを理解し、情報の収集・判断・処理・発信について基礎的な活用能力を身に付ける。
中学年	必要な情報を収集・選択・加工し、発表する際の学習の道具として活用するとともに、インターネットの良さが分かり、活用できる能力を身に付ける。	2 学年	課題や目的に応じて、適切に情報を活用できるとともに、情報化のもたらす影響、人間関係の在り方について考える力を身に付ける。
高学年	コンピュータを使用した情報処理の手段を選択し活用することで、問題解決に向けた学習や、自己表現力の向上につながる能力を身に付ける。	3 学年	課題解決のため、情報の処理・適切な分析・より分かりやすい発信などの工夫ができ、より実践的な活用ができる能力を身に付ける。

■ 情報活用能力の育成に向けた具体的な取組

各学校では、子どもたちの情報活用能力の習得に向けて取り組みます。各学年の個別の取組は、教育課程を通じて体系的に育む必要があり、文科省出典の「情報活用能力体系表(IE-School)」(P.23)を参考に、子どもたちの実態に応じた具体目標を定めて進めます。

ICTを活用した分かる授業の実践	家庭学習等を想定した遠隔授業の準備等
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な学習用情報端末及びプロジェクターなどのICT機器の活用 ・デジタル教科書やデジタル教材の活用 ・復習授業などにおいて、個別学習を充実するためICT機器を活用 ・ICTを活用した指導方法の工夫改善 ・特別支援教育におけるICT機器の活用 ・ロイロノートの活用による学習支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業への準備 ・家庭との連携強化 ・eラーニングの活用の促進
情報セキュリティ対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの育成(良いこと悪いことの判別をする。発信した情報の責任、人に与える影響を考えさせる。) ・PCを持ち帰らせる場合の扱いの徹底 ・教員を対象とした情報モラル教育の研修会等への参加 	

(3) ICTを活用した分かる授業の実践

情報活用能力は各教科の学びを支える基盤であり、主体的・対話的で深い学びへとつなげるため、ICTを活用した個別指導は基礎的な学力の定着に有効です。

本町では、文部科学省の「学びのイノベーション事業」を踏まえ、学習用情報端末活用計画表を作成し、ICTを活用した分かる授業の実践に取り組みます。

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>
<p>A1 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>
		<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>
		<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
		<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>
		<p>C4 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

学習用情報端末活用計画表(小学校)

導入・活用のねらい		児童	<input type="checkbox"/> 問題発見・問題解決能力の育成 <input type="checkbox"/> 必要な情報を精査し、収集する情報リテラシーを身に付ける。 <input type="checkbox"/> 創造性を育む。	学校・教員		<input type="checkbox"/> 主体的・対話的・深い学びに向けた授業改善につなげる。 <input type="checkbox"/> 学校の情報を適切に保護者に発信する。 <input type="checkbox"/> ペーパーレスの推進や事務作業の効率化。					
		項目		1年	2年	3年	4年	5年	6年	必要アプリ	
学級	朝、帰りの会の連絡事項の伝達							○	○	ロイロノート Google work space学校用	
	必要時に担任、学年からの連絡事項の伝達							○	○	ロイロノート Google work space学校用	
	月別スケジュール表の管理				○	○	○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
保護者	欠席・遅刻・早退連絡（必要に応じ電話による状態確認を併用）			○	○	○	○	○	○	○	Google work space学校用
	保護者相談の連絡			○	○	○	○	○	○	○	Google work space学校用
	学級通信の配信			○	○	○	○	○	○	○	Google work space学校用
	参観日、学校行事等の連絡			○	○	○	○	○	○	○	Google work space学校用
	学校評価・保護者アンケート			○	○	○	○	○	○	○	Google work space学校用
	教育相談の受付			○	○	○	○	○	○	○	Google work space学校用
学習	一斉学習	A1 教員による教材の提示	<input type="checkbox"/> 情報端末に、画像・音声・映像を拡大したり書き込みしながら提示することにより、提示内容を視覚的に分かりやすく伝える。 <input type="checkbox"/> 作業方法や実演の映像を提示することにより、学習活動を焦点化し、子どもたちの学習課題への理解を深める。	○	○	○	○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
	個別学習	B1 個に応じる学習	<input type="checkbox"/> 習熟の程度や誤答傾向に応じた情報端末向けのドリルソフトを用いることにより、各自のペースで理解しながら学習を進めて知識・技能を習得する。 <input type="checkbox"/> 発音・朗読、書写、運動、演奏などの活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり向上させたりする。	○	○	○	○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用 eライブラリ
		B2 調査活動	<input type="checkbox"/> 写真・動画等の詳細な観察情報を収集・記録・保存することにより、細かな観察情報による新たな気づきにつなげる。 <input type="checkbox"/> インターネットやデジタル教材等を用いて、効率のよい調査活動と確かな情報収集を行うことにより、情報を主体的に収集・判断する力を身に付ける。				○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
		B3 思考を深める学習	<input type="checkbox"/> デジタル教材を用いて、学習課題の試行を容易に繰り返すことにより、学習課題への関心が高まり、理解を深める。 <input type="checkbox"/> デジタル教材のシミュレーション機能や動画コンテンツ等を用いることにより、通常では難しい実験・試行を行う。				○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用

		項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	必要アプリ	
学習	個別学習	B4 表現・制作	<input type="checkbox"/> 写真・音声・動画等のマルチメディアを用いて、多様な表現を取り入れることにより、作品の表現技法の向上につなげる。 <input type="checkbox"/> 個別に制作した作品等を自在に保存・共有することにより、制作過程を容易に振り返り、作品を通じた活発な意見交流を行う。	○	○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用	
		B5 家庭学習	<input type="checkbox"/> 情報端末を持ち帰り、動画やデジタル教材などを用いて授業の予習・復習を行うことにより、各自のペースで継続的に学習に取り組む。 <input type="checkbox"/> 情報端末を使ってインターネットを通じた意見交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない様々な意見に触れる。	○	○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用 eライブラリ	
	協働学習	C1 発表や話し合い	<input type="checkbox"/> 個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、多角的な見方・考え方に触れたりする。 <input type="checkbox"/> テキストや動画で表現や考えを記録・共有し、何度も見直ししながら話し合うことにより、新たな表現や考えへの気づきを得る。	○	○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用	
		C2 協働での意見整理	<input type="checkbox"/> 学習課題に対する互いの進捗状況を把握しながら作業することにより、意見交流が活発になり、学習内容への思考を深める。 <input type="checkbox"/> 互いの考えを視覚的に共有することにより、グループ内の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進める。			○	○	○	ロイロノート Google work space学校用	
		C3 協働制作	<input type="checkbox"/> グループ内で役割分担し、情報端末を用いて同時並行で作業することにより、他者の進み具合や全体像を意識して作業する。 <input type="checkbox"/> 写真・動画等を用いて作品を構成する際、表現技法を話し合いながら制作することにより、子どもたちが豊かな表現力を身に付ける。	○	○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用	
		C4 学校の壁を越えた学習	<input type="checkbox"/> インターネットを用いて他校の子どもたちや地域の人々と交流し、異なる考えや文化にリアルタイムに触れることにより、多様なものの見方を身に付ける。 <input type="checkbox"/> テレビ会議等により学校外の専門家と交流して、通常では体験できない専門的な内容を聞くことにより、子どもたちの学習内容への関心を高める。	○	○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用	
		配慮や支援が必要な児童への活用	<input type="checkbox"/> 板書のデジタル化(板書をカメラで撮影、保存) <input type="checkbox"/> 個別最適化(eライブラリ)	○	○	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用	
	学校行事等	発表等の動画の作成。		○	○	○	○	○	○	ビデオスタジオ等
		児童会による行事の提案や意見集約。				○	○	○	○	
		行事の振り返り、反省アンケート。						○	○	ロイロノート Google work space学校用
その他	児童会委員会の取組。				○	○	○	○		
	臨時休業時のオンライン授業		○	○	○	○	○	○	Zoom・Google Meet	
	不登校児童等への授業配信やオンライン面談		○	○	○	○	○	○	Zoom・Google Meet	

学習用情報端末活用計画表(中学校)

導入・活用のねらい	生徒		<input type="checkbox"/> 問題発見・問題解決能力の育成 <input type="checkbox"/> 必要な情報を精査し、収集する情報リテラシーを身に付ける。 <input type="checkbox"/> 創造性を育む。				
	学校・教員		<input type="checkbox"/> 主体的・対話的・深い学びに向けた授業改善につなげる。 <input type="checkbox"/> 学校の情報を適切に保護者に発信する。 <input type="checkbox"/> ペーパーレスの推進や事務作業の効率化。				
		項目		1年	2年	3年	必要アプリ
学級	朝、帰りの会の連絡事項の伝達			○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
	必要時に担任、学年からの連絡事項の伝達			○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
	月別スケジュール表の管理			○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
保護者	欠席・遅刻・早退連絡（必要に応じ電話による状態確認を併用）			○	○	○	Google work space学校用
	保護者相談の連絡			○	○	○	Google work space学校用
	学級通信の配信			○	○	○	Google work space学校用
	参観日、学校行事等の連絡			○	○	○	Google work space学校用
	学校評価・保護者アンケート			○	○	○	Google work space学校用
	教育相談の受付			○	○	○	Google work space学校用
学習	一斉学習	A1 教員による教材の提示	<input type="checkbox"/> 情報端末に、画像・音声・映像を拡大したり書き込みしながら提示することにより、提示内容を視覚的に分かりやすく伝える。 <input type="checkbox"/> 作業方法や実演の映像を提示することにより、学習活動を焦点化し、子どもたちの学習課題への理解を深める。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
	個別学習	B1 個に応じる学習	<input type="checkbox"/> 習熟の程度や誤答傾向に応じた情報端末向けのドリルソフトを用いることにより、各自のペースで理解しながら学習を進めて知識・技能を習得する。 <input type="checkbox"/> 発音・朗読、書写、運動、演奏などの活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり向上させたりする。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用 eライブラリ
		B2 調査活動	<input type="checkbox"/> 写真・動画等の詳細な観察情報を収集・記録・保存することにより、細かな観察情報による新たな気づきにつなげる。 <input type="checkbox"/> インターネットやデジタル教材等を用いて、効率のよい調査活動と確かな情報収集を行うことにより、情報を主体的に収集・判断する力を身に付ける。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
		B3 思考を深める学習	<input type="checkbox"/> デジタル教材を用いて、学習課題の試行を容易に繰り返すことにより、学習課題への関心が高まり、理解を深める。 <input type="checkbox"/> デジタル教材のシミュレーション機能や動画コンテンツ等を用いることにより、通常では難しい実験・試行を行う。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用

		項目	1年	2年	3年	必要アプリ	
学習	個別学習	B4 表現・制作	<input type="checkbox"/> 写真・音声・動画等のマルチメディアを用いて、多様な表現を取り入れることにより、作品の表現技法の向上につなげる。 <input type="checkbox"/> 個別に制作した作品等を自在に保存・共有することにより、制作過程を容易に振り返り、作品を通じた活発な意見交流を行う。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
		B5 家庭学習	<input type="checkbox"/> 情報端末を持ち帰り、動画やデジタル教材などを用いて授業の予習・復習を行うことにより、各自のペースで継続的に学習に取り組む。 <input type="checkbox"/> 情報端末を使ってインターネットを通じた意見交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない様々な意見に触れる。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用 eライブラリ
	協働学習	C1 発表や話し合い	<input type="checkbox"/> 個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、多角的な見方・考え方に触れたりする。 <input type="checkbox"/> テキストや動画で表現や考えを記録・共有し、何度も見直ししながら話し合うことにより、新たな表現や考えへの気づきを得る。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
		C2 協働での意見整理	<input type="checkbox"/> 学習課題に対する互いの進捗状況を把握しながら作業することにより、意見交流が活発になり、学習内容への思考を深める。 <input type="checkbox"/> 互いの考えを視覚的に共有することにより、グループ内の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進める。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
		C3 協働制作	<input type="checkbox"/> グループ内で役割分担し、情報端末を用いて同時並行で作業することにより、他者の進み具合や全体像を意識して作業する。 <input type="checkbox"/> 写真・動画等を用いて作品を構成する際、表現技法を話し合いながら制作することにより、子どもたちが豊かな表現力を身に付ける。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
		C4 学校の壁を越えた学習	<input type="checkbox"/> インターネットを用いて他校の子どもたちや地域の人々と交流し、異なる考えや文化にリアルタイムに触れることにより、多様なものの見方を身に付ける。 <input type="checkbox"/> テレビ会議等により学校外の専門家と交流して、通常では体験できない専門的な内容を聞くことにより、子どもたちの学習内容への関心を高める。	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
		配慮や支援が必要な生徒への活用	<input type="checkbox"/> 板書のデジタル化(板書をカメラで撮影、保存) <input type="checkbox"/> 個別最適化(eライブラリ)	○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
	学校行事等	体育祭や学校祭、卒業式等でのプレゼンテーション資料の作成。		○	○	○	パワーポイント
		発表等の動画の作成。		○	○	○	ビデオスタジオ等
		生徒会による行事の提案や意見集約。		○	○	○	ロイロノート Google work space学校用
行事の振り返り、反省アンケート。			○	○	○		
生徒会委員会の取組。			○	○	○		
生徒会役員選挙の投票。			○	○	○		
	ライブ配信		○	○	○		
その他	部活動の連絡		○	○	○		
	臨時休業時のオンライン授業		○	○	○	Zoom・Google Meet	
	不登校生徒等への授業配信やオンライン面談		○	○	○	Zoom・Google Meet	

(4) 支援教育におけるICT活用

特別な支援を必要とする子どもが、その障がいや特性、発達段階に応じてICTを活用することは、学習や生活の困難を改善・克服する上で有効です。各学校では、個々の子どもの困難を軽減するために、アシスティブ・テクノロジー (Assistive Technology)としてICTを活用します。

○障がいの状態や特性等に応じたICT活用の留意点

○発達障害のある子どもたちについては、情報機器に強く興味・関心を示す者もいる。このような子どもたちには、学習意欲を引き出したり注意集中を高めたりするために情報通信技術を活用することが考えられる。例えば、学習障害のある子どもたちの中には認知処理の偏りのため文字を読むことが困難な者がいる。そのような場合、情報通信技術によりその偏りや苦手さを補ったり、得意な処理を伸ばしたりするなどの活用も考えられる。

○視覚障害のある子どもたちについては、読みにくい画面の情報を文字の拡大やレイアウトの変更、色調の調節等で補うとともに、視覚から得られない情報を聴覚や触覚などの代替手段を使って補うなどの工夫を行うことが重要である。また、視覚障害のある子どもたちの学習を支援するために拡大教科書の発行が進められているが、一人一人の視覚障害の状態に応じて文字の拡大等の調整を行うことができるデジタル教科書・教材等も活用することにより、その支援を充実していくことも重要である。

聴覚障がいのある子どもたちについては、適切に聴覚活用を図りつつ、視覚等の他の感覚器官の情報に置き換えて情報を伝達したりするなどの工夫を行うことが重要である。

知的障がいのある子どもたちについては、使いやすい支援機器や理解の程度に応じたコンテンツの選択を行うことが重要である。

肢体不自由のある子どもたちについては、適切な支援機器の選択ときめ細かなフィッティングの努力が重要である。

○病弱である子どもたちについては、生活経験が不足しがちであったり、学校に通えなかったり、学校に通えても学習活動に制約を受けたりする場合もある。

このため、実際に行うことが難しい観察や実験の補助としてパソコン等を使った疑似的体験を行ったり、インターネットや電子メール、テレビ会議システム、ウェブ会議システム等の活用を通じたコミュニケーションの維持・拡大等を行ったりするようにすることも重要である。

「教育の情報化ビジョン (文部科学省)」より

(5) プログラミング教育の推進

小学校では令和2年度、中学校では令和3年度から新学習指導要領が全面改訂され、プログラミング教育が導入されました。小中学校においては、情報活用能力を育成するために「プログラミング的思考」の育成が重視されています。子どもたちに論理的な思考力を身に付けさせるため、各種教材を活用してプログラミングの考え方を取り入れた学習を行います。

■ 全体目標

プログラミング教育のねらい

- ・「プログラミング的思考」を育むこと(思考力・判断力・表現力等)
- ・身近な生活でコンピュータが活用されていることや問題の解決には必要な手順があることに気付くこと(知識及び技能)
- ・コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりにいかそうとする態度を育むこと(学びに向かう力、人間性等)

プログラミング的思考とは

- ・どのような目的で、どのような一連の活動をさせたいのか、という意図を明確にする。
- ・その一連の活動を実現するために、どのような動きが必要なのかを考える。
- ・一つ一つの動きをコンピュータ等が理解できる命令に置き換える。
- ・置き換えた命令をどのように組み合わせればよいのかを考える。
- ・その命令の組み合わせを意図した活動により近づけるように改善する。
- ・論理的に考え、表現する。



(6) 校務の情報化の推進

学校が抱える課題が複雑化・困難化する中、教員の長時間労働が深刻化しており、学校における働き方改革の推進が求められています。本町では、在校時間の客観的な計測を行うことで、教職員の健康及び福祉の確保を図るため、平成30年度から出退勤管理システムを導入しています。

また、令和2年度から段階的に校務支援システムを導入しており、学習用情報端末の活用とともに、今後も情報を一元管理し、共有・再利用することにより、校務の効率化及び教育の質の向上を実現します。

さらに、令和7年度については、校務システムの更新を実施します。また、業務の改善や効率化を図るため、学習用情報端末と校務用情報端末の一体化を行います。

■ 校務支援システム(継続)

主な機能
○連絡機能…連絡掲示板 等
○校務スケジュール機能…予定表 等
○児童生徒情報管理機能…クラス編成・転出入・出席簿・通知表・成績 等

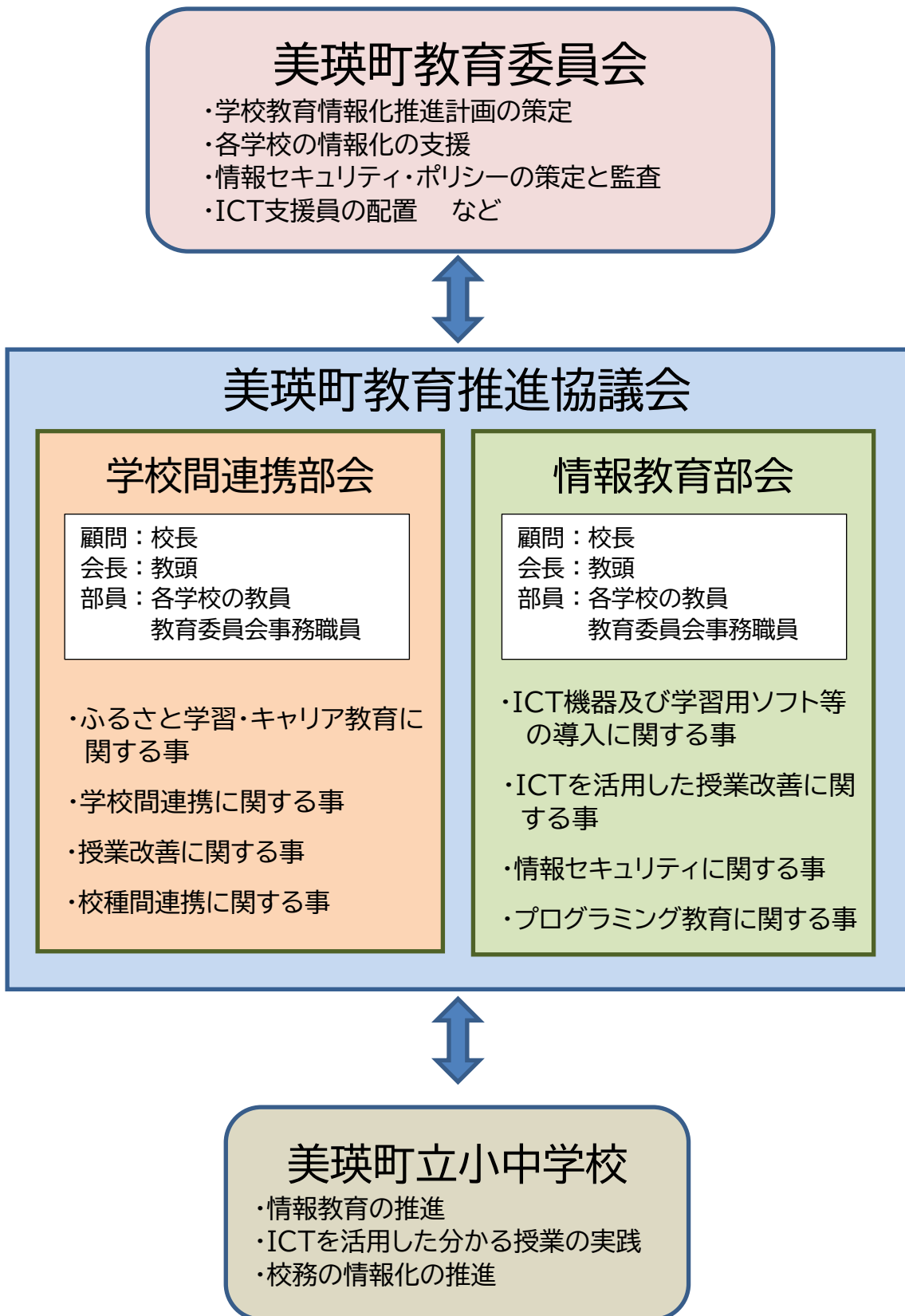
■ 勤務時間管理(継続)

○アプリケーションにより、各教員が出退勤を記録する。
○出退勤時間データを基に月ごとの総勤務時間が見える化し、各教員が自らの勤務状況の把握と健康管理に役立てる。

■ ICTを活用した業務改善(R7以降)

○各教員の校務用端末と学習用情報端末を一体化し、これまで以上にICTを活用した指導内容の改善、業務の効率化を進める。
--

美瑛町学校教育情報化推進組織図



用語集

1 GIGAスクール構想

2019年12月に文部科学省が打ち出した計画のこと。

「GIGA」 = 「Global and Innovation Gateway for All」の略

多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するために、創造性を育む教育を全国の学校現場で持続的に実現させることを目的にしたもので、以下を柱として教育分野のICT化を推進するものである。

- (1) 小・中・特別支援学校などの学習者用パソコンの1人1台配備を目指す。
- (2) クラウド活用のできる高速校内通信ネットワーク環境を整備する。

【情報活用能力の体系例（IE-School）における指導計画を基にステップ

分類	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	想定される学習内容
1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	a コンピュータの起動や終了、写真撮影などの基本操作	キーボードなどによる文字の正しい入力方法	キーボードなどによる文字の正確な入力	キーボードなどによる十分な速さで正確な文字の入力	効率を考えた情報の入力	電子ファイルの適切な運用（クラウドの活用や権限の設定等） 目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作 《ステップ4と同じ》
	b 電子ファイルの呼び出しや保存	電子ファイルの検索	電子ファイルのフォルダ管理	電子ファイルの運用（圧縮・パスワードによる暗号化、バックアップ等）	電子ファイルの適切な運用（クラウドの活用や権限の設定等）	目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作 《ステップ4と同じ》
	c 画像編集・ペイント系アプリケーションの操作	映像編集アプリケーションの操作	目的に応じたアプリケーションの選択と操作	目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作	目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作	目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作 《ステップ4と同じ》
2 問題解決・探究における情報活用方法の理解	d インターネット上の情報の閲覧・検索	インターネット上の情報の閲覧・検索	電子メールの送受信やAND、ORなどの論理演算を用いた検索	クラウドを用いた協働作業	クラウドを用いた協働作業 《ステップ4と同じ》	クラウドを用いた協働作業 《ステップ4と同じ》
	a 情報の基本的な特徴	情報の基本的な特徴	情報の特徴	情報の流通についての特徴	情報の流通についての科学的な理解	情報の流通についての科学的な理解
	b 情報を伝える主なメディアの特徴	情報を伝える主なメディアの特徴	情報を伝える主なメディアの特徴	情報を伝えるメディアの種類及び特徴	情報を伝えるメディアの科学的な理解 ※1	情報を伝えるメディアの科学的な理解 ※1
3 情報モラル・情報セキュリティなどに関する理解	c コンピュータの存在	身近な生活におけるコンピュータの活用	社会におけるコンピュータの活用	社会におけるコンピュータの活用	社会におけるコンピュータや情報システムの科学的な理解	社会におけるコンピュータや情報システムの科学的な理解
	d コンピュータの動作とプログラムの関係	コンピュータの動作とプログラムの関係	コンピュータの動作とプログラムの関係	コンピュータの動作とプログラムの関係	情報のデジタル化や処理の自動化の科学的な理解	情報のデジタル化や処理の自動化の科学的な理解
	e コンピュータの動作とプログラムの関係	コンピュータの動作とプログラムの関係	コンピュータの動作とプログラムの関係	コンピュータの動作とプログラムの関係	情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組み	情報通信ネットワークの構成と科学的な理解 ※3
1 問題解決・探究における情報活用方法の理解	f 大きな事象の分解と組み合わせの体験	大きな事象の分解と組み合わせの体験	意図した処理を行うための最適なプログラムの作成、評価、改善	意図した処理を行うための最適なプログラムの作成、評価、改善	問題発見・解決のためのプログラムの制作とモデル化 ※4	問題発見・解決のためのプログラムの制作とモデル化 ※4
	a 手順を示す方法	手順を示す方法	手順を示す方法	手順を示す方法	アクティビティ図等の統一モデリング言語によるアルゴリズムの表現方法	アクティビティ図等による適切なアルゴリズムの表現方法
	b 調査や資料等による基本的な情報の収集の方法	調査や資料等による基本的な情報の収集の方法	調査や実験・観察等による情報の収集と検証の方法	調査や実験・観察等による情報の収集と検証の方法	情報通信ネットワーク等からの効果的な情報の検索と検証の方法	情報通信ネットワーク等からの効果的な情報の検索と検証の方法
2 情報モラル・情報セキュリティなどに関する理解	c 共通と相違、順序などの情報と情報との関係	共通と相違、順序などの情報と情報との関係	原因と結果など情報と情報との関係	原因と結果など情報と情報との関係	主張と論拠、主張とその前提や証拠、個別と一般化などの情報と情報の関係	主張と論拠、主張とその前提や証拠、個別と一般化などの情報と情報の関係
	d 簡単な図や表、グラフを用いた情報の整理の方法	簡単な図や表、グラフを用いた情報の整理の方法	目的に応じた表やグラフを用いた情報の整理の方法	目的に応じた表やグラフを用いた情報の整理の方法	統計的調査の設計方法	統計的調査の設計方法
	e 情報の大枠を捉える方法	情報の大枠を捉える方法	複数の観点から情報の傾向と変化を捉える方法	複数の観点から情報の傾向と変化を捉える方法	推論の仕方、情報、結果などを用いた統計的な情報の整理・分析の方法	推論の仕方、情報、結果などを用いた統計的な情報の整理・分析の方法
1 問題解決・探究における情報活用方法の理解	f 情報を組み合わせる方法	情報を組み合わせる方法	複数の観点から情報の傾向と変化を捉える方法	複数の観点から情報の傾向と変化を捉える方法	目的に応じた統計を用いた客観的な情報の傾向と変化を捉える方法	目的に応じた統計を用いた客観的な情報の傾向と変化を捉える方法
	g 情報を組み合わせる方法	情報を組み合わせる方法	複数の観点から情報の傾向と変化を捉える方法	複数の観点から情報の傾向と変化を捉える方法	情報を統合して表現する方法	情報を統合して表現する方法
	h 相手や目的を意識したプレゼンテーションの方法	相手や目的を意識したプレゼンテーションの方法	聞き手や目的を考慮した効果的なプレゼンテーション方法	聞き手や目的を考慮した効果的なプレゼンテーション方法	Webページ、SNS、ライブ配信等の発信・交流の方法	Webページ、SNS、ライブ配信等の発信・交流の方法
2 情報モラル・情報セキュリティなどに関する理解	i 目的を達成するための情報及び情報技術の活用を計画を立てる手順	問題解決のための情報及び情報技術の活用を計画を立てる手順	問題解決のための情報及び情報技術の活用を計画を立てる手順	問題解決のための情報及び情報技術の活用を計画を立てる手順	安全・適切なプログラムによる表現・発信の方法 《ステップ4と同じ》	安全・適切なプログラムによる表現・発信の方法 《ステップ4と同じ》
	a 問題解決における情報の大切さ	問題解決における情報の大切さ	目的を達成するための情報及び情報技術の活用を計画を立てる手順	目的を達成するための情報及び情報技術の活用を計画を立てる手順	モデル化やシミュレーションの結果を踏まえて情報を活用する計画を立てる手順	モデル化やシミュレーションの結果を踏まえて情報を活用する手順
	b 情報の活用を振り返り、良さを確かめること	情報の活用を振り返り、良さを確かめること	情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出す手順	情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出す手順	情報及び情報技術の活用を効果的な視点から評価し改善する手順	情報及び情報技術の活用を効果的な視点から評価し改善する手順
3 情報モラル・情報セキュリティなどに関する理解	a 情報の活用を振り返り、良さを確かめること	情報の活用を振り返り、良さを確かめること	情報社会での情報技術の活用	情報社会での情報技術の活用	情報システムの役割や特性とその影響、情報デザインが人や社会に果たしている役割	情報システムの役割や特性とその影響、情報デザインが人や社会に果たしている役割
	b 人の作った物を大切にすることが他者に伝えてはいけない情報があること	人の作った物を大切にすることが他者に伝えてはいけない情報があること	情報社会での情報技術の活用	情報社会での情報技術の活用	情報社会における自己の責任や義務	情報社会における自己の責任や義務の理解
	c 生活の中で必要な基本的な情報セキュリティ	生活の中で必要な基本的な情報セキュリティ	情報社会での情報技術の活用	情報社会での情報技術の活用	情報社会における自己の責任や義務	情報社会における自己の責任や義務の理解
1 問題解決・探究における情報活用方法の理解	d コンピュータなどを利用するときの基本的なルール	コンピュータなどを利用するときの基本的なルール	情報モラルや情報セキュリティに関する危険性	情報モラルや情報セキュリティに関する危険性	健康な面への配慮した日常的な情報メディアの利用方法	健康な面への配慮した日常的な情報メディアの利用方法
	e 問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さを確かめることができる	問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さを確かめることができる	問題解決に向けた活動を実現するために情報の活用を見通しを立て、実行する	問題解決に向けた活動を実現するために情報の活用を見通しを立て、実行する	問題の効果的な解決に向け、条件を踏まえて情報活用を計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行する	問題の効果的な解決に向け、条件を踏まえて情報活用を計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行する
	a 必要となる情報を収集、整理・分析、表現する力	必要となる情報を収集、整理・分析、表現する力	調査や資料等から情報を収集し、情報同士をつなぐたり見つけたり、観点を決めた簡易な表やグラフ等を用意した「考えるための技法」を用いて情報を整理する	調査や資料等から情報を収集し、情報同士をつなぐたり見つけたり、観点を決めた簡易な表やグラフ等を用意した「考えるための技法」を用いて情報を整理する	調査を設計し、情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせて活用したりして整理する	調査を設計し、情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせて活用したりして整理する
2 情報モラル・情報セキュリティなどに関する理解	b 必要となる情報を収集、整理・分析、表現する力	必要となる情報を収集、整理・分析、表現する力	情報の傾向と変化を捉え、類似点や規則性を見つけて他との転用や応用を意図しながら問題に対する解決策を考察する	情報の傾向と変化を捉え、類似点や規則性を見つけて他との転用や応用を意図しながら問題に対する解決策を考察する	目的に応じ、情報と情報技術を選択かつ効果的に活用して、モデル化やシミュレーション等を行うに際し、情報の傾向と変化を捉え、多様な立場を想定し、問題に対する多様な解決策を明らかにする	目的に応じ、情報と情報技術を選択かつ効果的に活用して、モデル化やシミュレーション等を行うに際し、情報の傾向と変化を捉え、多様な立場を想定し、問題に対する多様な解決策を明らかにする
	c 受け手の状況を踏まえ発信する力	受け手の状況を踏まえ発信する力	表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせる方法	表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせる方法	目的や意図に応じて情報を統合して表現し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信、創造する	目的や意図に応じて情報を統合して表現し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信、創造する
	d 自らの情報活用を評価・改善する力	自らの情報活用を評価・改善する力	自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いかを考える	自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いかを考える	情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出す手順	情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出す手順
1 問題解決・探究における情報活用方法の理解	a 対象と関係する情報を見つければよいとする態度	対象と関係する情報を見つければよいとする態度	情報同士のつながりを見つければよいとする	情報同士のつながりを見つければよいとする	対象を情報とその結びつきの視点から捉えようとする	対象を情報とその結びつきの視点から捉えようとする 《ステップ4と同じ》
	b 試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	新たな視点を受け入れて検討しようとする	新たな視点を受け入れて検討しようとする	物事を批判的に考察し新たな価値を思い出す	物事を批判的に考察し新たな価値を思い出す
	c 情報の活用を振り返り、良さを身につけようとする	情報の活用を振り返り、良さを身につけようとする	目的に応じて情報の活用を見通しを立てようとする	目的に応じて情報の活用を見通しを立てようとする	条件を踏まえて情報及び情報技術の活用を計画を立て、試行しようとする	条件を踏まえて情報及び情報技術の活用を計画を立て、試行しようとする 《ステップ4と同じ》
2 情報モラル・情報セキュリティなどに関する理解	a 人の作った物を大切にすることが他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする	人の作った物を大切にすることが他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする	自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、尊重しようとする	自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、尊重しようとする	情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする	情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする 《ステップ4と同じ》
	b コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを守ろうとする	コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを守ろうとする	情報の発信や情報やりとりをする場合にもルール・マナーがあることを踏まえ、行動しようとする	情報の発信や情報やりとりをする場合にもルール・マナーがあることを踏まえ、行動しようとする	情報に関する法規や制度の意義を踏まえ、適切に行動しようとする	情報に関する法規や制度の意義を踏まえ、適切に行動しようとする
	c 責任をもつて適切な情報を扱おうとする態度	責任をもつて適切な情報を扱おうとする態度	情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	情報セキュリティを確保する意義を踏まえ、適切に行動しようとする	情報セキュリティを確保する意義を踏まえ、適切に行動しようとする
3 情報モラル・情報セキュリティなどに関する理解	a 情報や情報技術を選択して使おうとする	情報や情報技術を選択して使おうとする	情報社会での情報技術の活用	情報社会での情報技術の活用	仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの意義を踏まえ、適切に行動しようとする	仮想的な空間の保護・治安維持のためのサイバーセキュリティの意義を踏まえ、適切に行動しようとする
	b 情報や情報技術を選択して使おうとする	情報や情報技術を選択して使おうとする	情報や情報技術を活用し、生活を豊かにしようとする	情報や情報技術を活用し、生活を豊かにしようとする	情報や情報技術を活用し、生活を豊かにしようとする	情報や情報技術を活用し、生活を豊かにしようとする 《ステップ4と同じ》
	c 情報や情報技術を選択して使おうとする	情報や情報技術を選択して使おうとする	情報や情報技術を活用し、生活を豊かにしようとする	情報や情報技術を活用し、生活を豊かにしようとする	情報や情報技術を活用し、生活を豊かにしようとする	情報や情報技術を活用し、生活を豊かにしようとする 《ステップ4と同じ》